

メスプニュース 第1弾!

今回のテーマ 精密検査の推奨

今月、メスプの大腸がん検査を受診して下さった方の問診票から以下のことが分かりました。

- Aさん 55 歳 男性
- 毎年メスプの大腸がん検査を秋に受診されている方です。
- 過去 9 年間の検査結果履歴

受診年度	結果		受診年度	結果	
2008 年	+	-	2003 年	未受診	
2007 年	大腸がんが見つかり入院		2002 年	未受診	
2006 年	+	+	2001 年	-	-
2005 年	+	+	2000 年	-	-
2004 年	-	-			

メスプでは、検査結果で有所見（陽性）があった方には、検査結果通知の際にアンケートを実施し、メスプが実施する検査精度の客観的把握に努めるとともに、有所見者に 2 次検診を積極的に勧めるシステムを構築しております。

今回のAさんは、メスプから通常のフォローをさせていただけない組合員の方でした。

結果として、2005 年、2006 年と陽性の結果が出ていたにもかかわらず、精密検査に行っておられなかったようです。2007 年度はメスプの大腸がん検査の前（5 月）に、病院にて“がん”が発見され入院ということになったようです。

検査をしても“やりっぱなし”ではなく、結果を受け止めて精密検査に行っていただき、早期の段階で見つけ治療をすることが肝心です。

「検診＝なんとも無い人が受けるもの」「症状のある人は、すぐ病院へ」

症状がでるほどの“がん”になれば、治療が困難であるだけでなく、ご本人、ご家族、又会社の方々への心身的・費用的負担が増加するのです。

検査士の話：最初の陽性（+）が出た時点で、精密検査に行っておけば「前がん病変」で見つかったのでは？

